

(9) キャベツ (4～6月どり)



■特徴

- ・業務加工用の安定した需要，一般青果用としても欠かせない野菜
- ・秋冬どりキャベツ後に，寒玉系早生・中早生品種を組み合わせることで越冬し，長期間の収穫・出荷を計画することができる
- ・機械作業体系での栽培が可能
- ・主要作業時期(播種，定植，収穫)は，水稻繁忙期と調整することが可能で競合しない作型を導入できる

■品種

「冬藍」(サカタのタネ)，「彩音」，「夢ごろも」(タキイ種苗)，「ことみ」(日本農林社)
 → 寒玉系早生，中早生品種(葉質が固く加工・業務用向き)，良く肥大し収量が安定，低温に強く貯蔵性良好

■栽培のポイント

- ・4～6月どり収穫は9月中旬以降の定植で越冬作型となる。概ね9月中下旬定植で4月どり，10月上中旬定植は5月どり，10月中下旬の定植で6月どりとなる。
- ・均一な苗の育成がポイントであるため，長期無追肥育苗を推奨する。長期無追肥育苗はセルトレイ育苗で定植まで追肥をせず，かん水だけを続け，育苗期間を45～50日程度とする育苗方法
 → 苗が固くなり乾燥に強くなる，苗質が良く揃う，定植直前には追肥を行う
- ・8月の播種・育苗(4月どり)は高温期になるため，ハウス内で育苗する場合は高温対策を行う
- ・9，10月は秋雨，台風の時期になるため，ほ場の排水対策(暗渠，明渠の設置等)を必ず行う
- ・定植直前に苗にたっぷり水を与える，植え付けはやや深植えにする，定植後は可能であればかん水する
- ・病虫害防除：虫害(チョウ目害虫，アブラムシ類等)，病害(軟腐病，菌核病等)対策は8～11月必要
- ・特に契約出荷では出荷形態(ダンボール，コンテナ等)に対応した作業体系とする

■経営収支 (参考として、秋冬どりの経営収支を記載)

(10a 当たり)

- 目標出荷量 5.0t ○粗収益 30.0万円(kg単価60円想定)
 ○年間労働時間 43.1時間 ○期待される所得 85,938円 ○1時間当たりの労働報酬 1,999円

◎経営収支の内訳 (10a 当たり)

項目	金額 (円)	備考
粗収益①	300,000	収量 5,000kg×単価 60円/kg
支出 (変動費)	種苗費	11,000 コーティング種子
	肥料費	26,021 化成肥料，苦土石灰，リン酸資材
	農薬薬剤費	24,083 殺菌剤，殺虫剤，除草剤
	光熱動力費	5,560 ガソリン，軽油等
	諸材料費	9,862 セルトレイ，育苗培土
	出荷販売経費	40,000 運賃+販売手数料
	合計②	116,526
限界利益③ (①-②)	183,474	収益-支出 (機械等の費用を考慮しない利益)
固定費④	97,536	減価償却費(キャベツ機械化体系一式)
農業所得⑤ (③-④)	85,938	機械等の費用(減価償却費)を考慮した利益
所得率(%) ⑤÷①×100	29	

キャベツ（4～6月どり） 栽培暦

月	旬	管理作業	栽培の要点																						
8	上	播種(長期無追肥育苗)	1. 作型と品種 ・4月どり：夏季高温期の育苗定植，生育期の台風 ・5月どり：夏季高温期の育苗定植，生育期の台風 ・6月どり：収穫時期の低温降霜と気候変動が大きい ・品種例 「冬藍」：1，2月どりも可能，低温に強い，良く揃う 「彩音」：1，2月どりも可能，厳寒期でも低温障害が少ない 「夢ごろも」，「ことみ」：中たいが少なく，低温に強い 2. 育苗 ・セルトレイ128穴を推奨，市販の育苗専用培土 ・育苗は防虫ネットを活用 ・育苗中は追肥をせず，かん水だけを続ける長期無追肥育苗 →定植直前には追肥を行う ・育苗中から病害虫が発生するので，防除する 3. ほ場準備 ・水田転作等では暗渠の確認，明渠の施工，補助暗渠など必須である。排水性の改善を徹底する 4. 施肥 ・1作総施肥量は窒素:リン酸:加里=各20～25kg/10a ・基肥には窒素成分15kg程度，残りは追肥で ・4月，5月どりは11月上旬までに2回，6月どりは11月上旬に1回追肥，各作型とも3月から生育をみながら1～2回追肥を行う ○施肥例(成分量 kg/10a) <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">基肥</th> <th colspan="2">追肥</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>窒素(N)</td> <td>15</td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> <td>21.4</td> </tr> <tr> <td>リン酸(P)</td> <td>18</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>22.0</td> </tr> <tr> <td>加里(K)</td> <td>15</td> <td>2.8</td> <td>2.8</td> <td>20.6</td> </tr> </tbody> </table>		基肥	追肥		合計	1回目	2回目	窒素(N)	15	3.2	3.2	21.4	リン酸(P)	18	2.0	2.0	22.0	加里(K)	15	2.8	2.8	20.6
		基肥				追肥			合計																
				1回目	2回目																				
窒素(N)	15	3.2		3.2	21.4																				
リン酸(P)	18	2.0		2.0	22.0																				
加里(K)	15	2.8		2.8	20.6																				
中	↓4月どり用																								
下	↓5月どり用																								
9	上	↓6月どり用 ほ場準備，施肥																							
	中	定植																							
	下	↓4月どり用																							
10	上	↓ 病害虫防除 (黒腐病，菌核病)																							
	中	↓5月どり用 追肥																							
	下	↓5，6月どり用																							
11	上	6月どり用 病害虫防除 追肥																							
	中																								
	下																								
12		↓ 越冬																							
1																									
2																									
3	上	病害虫防除 追肥																							
	中																								
	下																								
4～6		病害虫防除 追肥 収穫(降雨後は割れが発生，収穫適期を逃さない)																							
			5. 定植 ・定植作業直前に苗にかん水し，乾燥に備える ・農薬の定植時灌注処理も活用する(根こぶ病) ・10a当たり株数4,500～5,000株を標準に →株間30～35cm，畝間60～75cm，1条植，無マルチ 6. 除草 ・除草剤の使用時期は定植後，雑草生育初期(4月5月どり) 6月どりは3月に土壌表面処理剤を活用する 7. 病害虫防除 ・収量と品質保持に必須 ・定植～11月中旬までは防除が必要で越冬後は3月から定期的な防除を実施 ・作付け前に防除スケジュールを決定しておくこと 8. 追肥 ・定植3週間後～1.5ヶ月後に2～3回施用 9. 収穫 ・収穫，運搬，調製選別までの作業動線を確認しておく																						

(10) ゆきな(露地・寒締め)



■特徴

- ・耐寒性が強く、冬季の安定生産及び出荷が可能。
- ・在ほ性も高いため、労働力に合わせた作業の実施ができる。
- ・計画的な作付体系により、水稻作業との両立が可能。
- ・えだまめ等夏野菜の後作として作付可能。

■品種

みそめちぢみ菜(タキイ種苗)、広瀬ちぢみ菜(渡辺採種場)
→葉色が濃緑色、在ほ性・耐寒性が高く葉の縮みも深い

■栽培のポイント

- ・湿害に弱いため、排水性の優れたほ場を選択するほか、明渠やサブソイラーによる心土破碎等の対策を講じる。
- ・肥料は基本的に基肥(NPK=各 15kg/10a)のみ施用し、草勢や葉色に合わせて液肥を施用する。
- ・播種は雨の日の前日や、降雨後でほ場が少し湿っている時に実施する。播種時期に晴天が続きほ場も乾燥している状態であれば、播種後にかん水する必要がある。
- ・播種から11月までの農薬防除を徹底する。特に、アブラムシやキスジミノハムシ類等の害虫、白サビ病等の防除を中心に行う。
- ・収穫時期によって、商品名が‘ゆきな’(9～12月中旬)から‘ちぢみゆきな’(12月中旬～3月)へと変わり、出荷規格も異なる。
- ・‘ちぢみゆきな’は作付体系によって、巾着タイプ(株間×条間=5～7cm×15cm)とフラワータイプ(株間×条間 15cm×15cm)の2通りの出荷体系がある。

■経営収支

(10a 当たり)

- 目標出荷量 1.0t ○粗収益 30.4 万円(kg 単価 304 円想定)
- 年間労働時間 242 時間 ○期待される所得 119,370 円 ○1 時間当たりの労働報酬 494 円

◎経営収支の内訳 (10a 当たり)

項目	金額 (円)	備考	
粗収益①	304,000	収量 1,000kg×単価 304 円/kg	
支出 (変動費)	種苗費	10,153	
	肥料費	28,776	化成肥料, 石灰資材
	農薬薬剤費	11,412	殺菌剤, 殺虫剤, 除草剤
	光熱動力費	4,565	ガソリン, 軽油等
	諸材料費	28,000	被覆資材
	出荷販売経費	89,885	販売手数料+運賃, 出荷資材
合計②	172,791		
限界利益③ (①-②)	131,209	収益-支出 (機械等の費用を考慮しない利益)	
固定費④	11,839	減価償却費(トラクター, 管理機等)	
農業所得⑤ (③-④)	119,370	機械等の費用(減価償却費)を考慮した利益	
所得率(%) ⑤÷①×100	39		

ゆきな(露地・寒締め)の栽培暦

月	旬	管理作業	栽培の要点												
8	下	ほ場準備	1 作型と品種 ・露地・寒締め：播種～生育期にかけての台風，秋冬季の高温，収穫時期の積雪量が収量に影響する。 ・品種 「みそめちぢみ菜」：株張りがよく1株が重い，耐寒性が強い，在ほ性に優れる。 「広瀬ちぢみ菜」：草姿はコンパクト，耐寒性が強い，在ほ性に優れる。												
9	上	↑↓													
	中	施肥・畝立て													
	下	播種													
10	上	↑↓	2 本畑の準備 ・排水性向上のため，明渠やサブソイラーによる心土破碎を行う。 ・地力の維持・向上のため，定植2週間前までに完熟堆肥等を全面施用し，耕耘する。 ・連作障害を避けるため，前作にアブラナ科の品目を作付したほ場を避ける。												
	中	間引き													
	下	↑↓ 病害虫防除													
11	上	↑↓	3 施肥量 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td></td> <td>窒素</td> <td>リン酸</td> <td>加里</td> </tr> <tr> <td>基肥</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td colspan="3">無し(必要に応じて液肥を施用)</td> </tr> </table> ・使用肥料例 基肥：CDU タマゴ化成 S555 現物 100kg/10a ・施肥は全面施肥，もしくは畝立て部分に施用する。		窒素	リン酸	加里	基肥	15	15	15	追肥	無し(必要に応じて液肥を施用)		
				窒素	リン酸	加里									
	基肥			15	15	15									
追肥	無し(必要に応じて液肥を施用)														
中															
下															
12	上	(べたがけ被覆)	4 畝立て ・畝幅：140～160cm，ベット幅：80～90cmを目安に畝を立てる。 ・基本的に無マルチ栽培とする。												
	中	収穫													
	下														
1	上		5 播種 ・直播栽培を基本とする。播種作業は，手押し播種機か真空播種機を用いて播種する。 ・株間は，出荷形態により変える必要がある。下図を参考に株間を決定する。												
	中														
	下														
2	上		<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td></td> <td>播種間隔</td> <td>株間(cm)</td> <td>条間(cm)</td> </tr> <tr> <td>巾着</td> <td>5～10</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>フラワー</td> <td>15～20</td> <td>15</td> </tr> </table>  図 巾着タイプ(左)とフラワータイプ(右)		播種間隔	株間(cm)	条間(cm)	巾着	5～10	15	フラワー	15～20	15		
		播種間隔		株間(cm)	条間(cm)										
	巾着	5～10		15											
フラワー	15～20	15													
中															
下															
3	上		6 間引き ・本葉が1～2枚程度出葉した段階で間引いて，1株立ちとする。												
	中														
	下														
4	上	ほ場片付け	7 病害虫防除 ・9月～11月までは，ヨトウ類やアブラムシ，キスジノミハムシ等の害虫，白サビ病等の防除を行う。												
	中														
	下														
5	上		8 被覆資材のべたがけ(※) ・強風による葉のこすれや，霜害を防ぐために不織布資材等のべたがけが有効である。 ・被覆資材は，11月下旬～12月上旬に被覆を開始し，収穫作業の都度開閉する。 ・積雪量が多く，冬季の寒さが厳しい地域ではべたがけ被覆は必要であるが，積雪量が少なく比較的温暖な地域ではべたがけ被覆無しでも栽培可能である。												
	中														
	下														
6	上		9 収穫 ・根元から，包丁や剪定ばさみを用いて収穫する。 ・収穫時に株同士の葉が絡むため，葉を折ったり傷つけないよう注意する。												
	中														
	下														
7	上		10 調製 ・巾着タイプ：外葉を6枚程度除去(枯れ葉，病害葉，食害痕のある葉を含む)，莖葉の長さは24cm以下，50～80g/株とする。 ・フラワータイプ：外葉を6枚程度除去(枯れ葉，病害葉，食害痕のある葉を含む)，50～80g/株とする。 ・根元に付いた土汚れを濡れ布巾で綺麗にする(両タイプ共通)。												
	中														
	下														

(11) えだまめ

■特徴

- ・品種選定や作型の組み合わせにより、作業時期や出荷期間の調整が可能
- ・早生品種の春作は、作付け後に秋作の野菜と組み合わせてほ場を有効活用できる
- ・機械化一貫体系が整っており、他作物と共通の機械もあるため、複合化・大規模化が見込める
- ・収穫と出荷調製作業を適期に行う体制が必須

■品種

「湯あがり娘」(カネコ種苗)、「おつな姫」(サカタのタネ)、「神風香」(雪印種苗)
 →収量性と食味が良いことのほか、想定する出荷時期に合う早晩性の品種を選ぶこと

■栽培のポイント

- ・湿害を避けるために排水性が重要、少なくとも本暗きよの排水性が機能しているほ場を選ぶ。
- ・事前に排水対策を行う、補助暗渠、心土破碎、額縁明きよの施工、等
- ・基肥の施用量は土壤中の残肥を考慮し、不足分は追肥で調整すると開花遅れや不稔粒などの発生を防ぐことができる。
- ・収穫時期が集中しないよう、数回に分けて播種する。収穫時期をずらすためには、1週間以上あけるとよい。
- ・病虫害防除：虫害(ハムシ、カメムシ類等)、病害(菌核病、立枯病等)に注意する。
- ・食味と収量確保のためには適期収穫が必要であるが、適期は3～5日間程度と非常に短く、収穫が遅れると莢の黄化や品質劣化を起こすので、収穫から調製、出荷までの作業工程を準備しておく。

■経営収支

(10a 当たり)

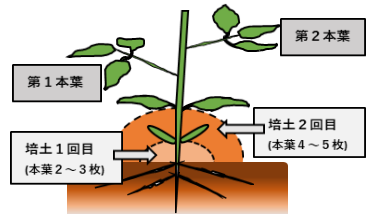
- 想定出荷量 410kg ○粗収益 24.2万円(kg単価591円想定)
- 年間労働時間 51時間 ○期待される所得 74,023円 ○1時間当たりの労働報酬 1,454円

◎経営収支の内訳(10a 当たり)

項目	金額(円)	備考	
粗収益①	242,310	収量410kg×単価591円/kg	
支出 (変動費)	種苗費	26,400	コーティング種子
	肥料費	18,863	化成肥料、苦土石灰、リン酸資材
	農薬薬剤費	10,032	殺菌剤、殺虫剤、除草剤
	光熱動力費	4,544	ガソリン、軽油等
	出荷販売経費	68,764	運賃+販売手数料
	合計②	128,603	
限界利益③(①-②)	113,707	収益-支出(機械等の費用を考慮しない利益)	
固定費④	39,684	減価償却費(エダマメ収穫機、選別機等)	
農業所得⑤(③-④)	74,023	粗収益-経営費	
所得率(%) ⑤÷①×100	31		

えだまめ 栽培暦

月	旬	管理作業	栽培の要点																												
4	上	ほ場準備・施肥	1. 作型と品種 ・普通栽培：収穫・調製以外は比較的手間がかからず、秋野菜との組み合わせも容易。 ・品種例 「湯あがり娘」：食味良好，3粒莢率が高い，幅広い作型に適応。 「おつな姫」：甘みと風味で優れる，3粒莢率が高い，早い作型にも適応。 「神風香」：食味良好，3粒莢率が高い，草勢がおとなしくコンパクト。 ・機械収穫に適する品種特性と品種例 ①露地栽培 ②立性草姿 ③倒伏に強い ④最下着莢位置が高い。 (品種例：初だるま，つきみ娘，ゆかた娘(カネコ種苗))																												
	中																														
	下																														
5	上	播種・除草剤散布	2. 本畑の準備 作付け2週間～1ヶ月前に，10a 当たり完熟堆肥2t，苦土石灰120kgを全面施肥し，耕起・砕土を行っておく。 3. 施肥量 (kg/10a) <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>施肥成分等</th> <th>早生種</th> <th>中生種</th> <th>晩生種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>窒素</td> <td>7～8</td> <td>4～5</td> <td>2～3</td> </tr> <tr> <td>リン酸</td> <td>7～8</td> <td>4～5</td> <td>2～3</td> </tr> <tr> <td>カリ</td> <td>7～8</td> <td>4～5</td> <td>2～3</td> </tr> <tr> <td>堆肥</td> <td colspan="3">2,000</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td colspan="3">120</td> </tr> <tr> <td>BM 溶燐</td> <td colspan="3">40</td> </tr> </tbody> </table>	施肥成分等	早生種	中生種	晩生種	窒素	7～8	4～5	2～3	リン酸	7～8	4～5	2～3	カリ	7～8	4～5	2～3	堆肥	2,000			苦土石灰	120			BM 溶燐	40		
	施肥成分等			早生種	中生種	晩生種																									
	窒素			7～8	4～5	2～3																									
リン酸	7～8	4～5	2～3																												
カリ	7～8	4～5	2～3																												
堆肥	2,000																														
苦土石灰	120																														
BM 溶燐	40																														
中																															
下																															
6	上	病害虫防除	4. 播種 播種期は5月上旬～6月中旬であるが，長期間継続して出荷する場合は早生と晩生の品種を組み合わせる。 (1)播種量 1穴当たり2粒まきとする。10a 当たり4～6ℓの種子が必要。 (2)栽植密度 畝幅54～60cm，株間18～20cm 5. 栽培管理 (1)除草剤散布 発芽前に，えだまめに登録のある除草剤を散布する。 (2)病害虫防除 ハムシ，カメムシ類等による食害や菌核病，立枯病等の病害の発生は，収量及び品質に大きく影響してしまうため，適期防除に努める。 (3)追肥 1回につき，10a 当たり窒素成分で2～3kgを施肥。なお，中晩生種は早生種に比べて蔓化しやすいため，特に生育が劣るとき以外は行わない。 (4)中耕・培土 1回目：本葉が2～3枚のとき 2回目：本葉が4～5枚のとき なお，培土は追肥と併せて行うと良い。																												
	中																														
	下																														
7	上	追肥・培土	(1)追肥・培土																												
	中																														
	下																														
8	上	追肥・培土	(1)追肥・培土																												
	中																														
	下																														
8	上	収穫・調製・出荷	6. 収穫・調製 (1)時期 株の上部と下部に多少未熟な莢があり，莢の大部分が硬くならず充実し，指で押さえると実が飛び出す頃が収穫適期。(開花・着莢後35～40日) (2)方法 株ごと引き抜くかハサミで熟した莢から順に切り取って収穫する。 収穫後，品質は急激に低下し，特に日中の高温時の収穫は品質が低下しやすいので避ける。																												
	中																														
	下																														
9	上	ほ場片付け	(1)時期 株の上部と下部に多少未熟な莢があり，莢の大部分が硬くならず充実し，指で押さえると実が飛び出す頃が収穫適期。(開花・着莢後35～40日) (2)方法 株ごと引き抜くかハサミで熟した莢から順に切り取って収穫する。 収穫後，品質は急激に低下し，特に日中の高温時の収穫は品質が低下しやすいので避ける。																												
	中																														
	下																														



(12) ちぢみほうれんそう（露地・秋まき）



■特徴

- ・一般的な立性品種ではなく、主に開張性品種を用いる。
- ・冬の寒さや霜に当たることで葉はちぢみ、糖度も高くなる。
- ・糖度 8° 以上の基準規格が定められている。
- ・他の品目と作業が競合せず、導入しやすい。

■品種

主な品種：「じっくり朝霧」（渡辺採種場）、「寒味・極」（トキタ種苗）、「雪美菜 02」（雪印種苗）
 →開張性。葉肉厚く、葉色は濃い緑色。べと病抵抗性をもつ。葉の黄化が遅く、在圃性が高い。

■栽培のポイント

- ・排水不良による土壌の過湿は発芽不良の原因になるとともに、病気の発生や品質及び収量の低下の原因となるため、排水性が良いほ場を選択して作付けする。明渠や、サブソイラーの利用等の排水対策を講じると尚良い。
- ・酸性土壌に弱いため、好適 pH の 6.0～7.0 となるよう矯正する。
- ・直播栽培を基本とし、手押し播種機や真空播種機を用いて播種する。
- ・一般的なほうれんそう栽培とは異なり、株間をかなり広くとる。
- ・病虫害防除：虫害，病害対策をしっかりと行う。特に、虫害ではアブラムシ、病害ではべと病に注意し、防除を行う。

■経営収支

(10a 当たり)

- 目標出荷量 1.0t ○粗収益 54.5 万円(kg 単価 545 円想定)
 ○年間労働時間 242 時間 ○期待される所得 360,370 円 ○1 時間当たりの労働報酬 1,489 円

◎経営収支の内訳 (10a 当たり)

項目	金額 (円)	備考	
粗収益①	545,000	収量 1,000kg × 単価 545 円/kg	
支出 (変動費)	種苗費	10,153	
	肥料費	28,776	化成肥料, 石灰資材
	農薬薬剤費	11,412	殺菌剤, 殺虫剤, 除草剤
	光熱動力費	4,565	ガソリン, 軽油等
	諸材料費	28,000	被覆資材
	出荷販売経費	89,885	販売手数料 + 運賃, 出荷資材
	合計②	172,791	
限界利益③ (① - ②)	372,209	収益 - 支出 (機械等の費用を考慮しない利益)	
固定費④	11,839	減価償却費(トラクター, 管理機等)	
農業所得⑤ (③ - ④)	360,370	機械等の費用(減価償却費)を考慮した利益	
所得率(%) ⑤ ÷ ① × 100	66		

*年間労働時間、支出、固定費はちぢみゆきな経営収支を参考

ちぢみほうれんそう(露地・秋まき)の栽培暦

月	旬	管理作業	栽培の要点												
8	下	ほ場準備	<p>1 作型と品種</p> <ul style="list-style-type: none"> 露地・秋まき：播種～生育期にかけての台風，秋冬季の高温，収穫時期の積雪量が収量に影響する。 品種 <ul style="list-style-type: none"> 「じっくり朝霧」：丸葉で適度なちぢみあり。べと病レース 1～12、14、15 抵抗性あり。 「寒味・極」：葉は濃い緑色で光沢あり。べと病レース 1～13、15 抵抗性あり。 「雪美菜 02」：やや葉先が尖る広葉の中間葉種。べと病レース 1～13 抵抗性あり。  <p>図 各品種の外観（左から「じっくり朝霧」、「寒味・極」、「雪美菜 02」）</p> <p>2 本畑の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 排水性向上のため，明渠やサブソイラーによる心土破碎を行う。 地力の維持・向上のため，定植 2 週間前までに完熟堆肥等を全面施用し，耕耘する。 ほうれんそうの好適 pH である 6.0～7.0 を目安に，石灰資材等で矯正する。 <p>3 施肥量</p> <table border="1" data-bbox="427 929 869 1048"> <thead> <tr> <th></th> <th>窒素</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基肥</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td colspan="3">無し(必要に応じて液肥を施用)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 使用肥料例 基肥：CDU タマゴ化成 S555 現物 100kg/10a 施肥は全面施肥，もしくは畝立て部分に施用する。 <p>4 畝立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 畝幅：150～160cm，ベット幅：90cm を目安に畝を立てる。 基本的に無マルチ栽培とする。 <p>5 播種</p> <ul style="list-style-type: none"> 直播栽培を基本とする。播種作業は，手押し播種機か真空播種機を用いて播種する。 1 穴当たり 2～3 粒播種とし，本葉 1 枚目展開時に間引いて 1 株立ちとする。 株間は 15cm、条間は 15～20cm の 4 条植えを目安にする。 <p>6 病虫害防除</p> <ul style="list-style-type: none"> 9 月～11 月までは，ヨトウ類やアブラムシ，べと病等の防除を行う。 <p>7 被覆資材のべたがけ(※)</p> <ul style="list-style-type: none"> 強風による葉のこすれや，霜害を防ぐために不織布資材等のべたがけが有効である。 被覆資材は，11 月下旬～12 月中旬に被覆を開始し，収穫作業の都度開閉する。 積雪量が多く，冬季の寒さが厳しい地域ではべたがけ被覆は必要であるが，積雪量が少なく比較的温暖な地域ではべたがけ被覆無しでも栽培可能である。 <p>8 収穫</p> <ul style="list-style-type: none"> 根元から，包丁や剪定ばさみを用いて収穫する。 収穫時に葉を折ったり傷つけないよう注意する。 ハイクリトラクターに装着するハウレンソウ根切機もあるため，省力化が可能である。 <p>9 調製</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫後は，本葉 2 枚目までを取り除き，根本を 3mm 程度に切りそろえる。また，枯れ葉や黄化葉，食害痕のある葉も取り除く必要がある。 葉や根元に付着した土は，乾いた布等で拭き取る。 糖度が，規格基準である 8° 以上であることを確認し，出荷する。糖度の測定方法は，出荷先の方法に準ずる。 		窒素	リン酸	加里	基肥	15	15	15	追肥	無し(必要に応じて液肥を施用)		
	窒素	リン酸		加里											
基肥	15	15		15											
追肥	無し(必要に応じて液肥を施用)														
9	上	施肥・畝立て													
	中	播種													
	下	↕													
10	上	病虫害防除													
	中	間引き													
	下	↕													
11	上														
	中														
	下	(べたがけ被覆)													
12	上														
	中	収穫													
	下														
1	上														
	中														
	下														
2	上														
	中														
	下														
3	上														
	中														
	下														
4	上	ほ場片付け													
	中														
	下														

(13) セリ（露地・年末どり）

■特徴

- ・宮城県では、1775年に名取市ですでに栽培されていた。
- ・香りが強く、風味が豊かな野菜。
- ・近年の全国的なセリ鍋ブームの広がりから、秋冬期、特に年末年始を中心に需要が高い。
- ・葉は濃緑色で鮮やか、根は白く太いものが好ましい。

■品種

主な品種：「Re14-4」（宮城県育成品種）、「みやぎVWD1号」、「島根みどり」
→草姿が立性で、葉や葉柄が濃緑色、かつ耐寒性も強い。

■栽培のポイント

- ・親株から発生する匍匐枝(ランナー)を植え付けて栽培する。
- ・一般的な野菜と異なり、種田に親株を植え付け、発生したランナーを種セリとして収穫する。本田には種セリを植え付けて栽培し、商品となるセリの収穫を行う、という2段階に分かれている。
- ・綺麗で豊富な水が必要不可欠である。
- ・本田への植え付けの際は、できるだけ均等にまくように注意する。

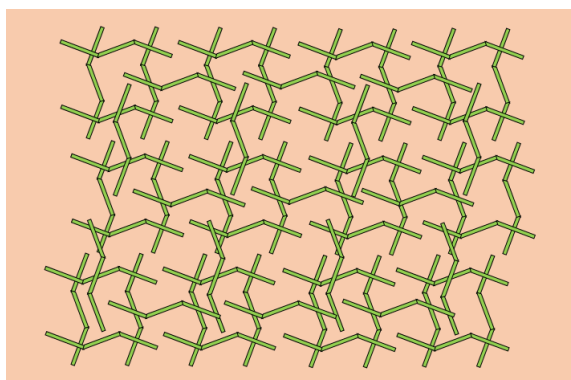


図1 本田へのセリの植え付けイメージ



図2 本田への植え付け後の様子



図3 収穫作業の様子

セリ(露地・年末どり)の栽培暦

月	旬	管理作業		栽培の要点
		種田	本田	
3	下	ほ場準備		<p>1 作型と品種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年末どり：最も収益性の高い年末を狙った作型。種セリ植付時期の台風、10～11月にかけての病害防除が収量に影響する。 ・品種 <ul style="list-style-type: none"> 「Re14-4」：葉は大きく、茎や根が太い。調製時の廃棄量が少なく、作業性に優れる。 「みやぎVWD1号」：生育が早く、葉が大きい。葉枯病抵抗性あり。 「島根みどり」：生育が早い。葉が小さいため、霜による被害が少ない。 <p>2 種田の準備と施肥、植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石灰窒素(雑草防除や土壌消毒)、完熟堆肥(地力の維持・向上)を定植10～14日前まで施用して耕耘。 ・基肥：a当たり窒素成分量で1.0～1.5kgを目安、追肥：生育に合わせて液肥等を施用。 ・植え付け：4月下旬～5月中旬、株間×条間=30cm×30cmで植え付け。 <p>3 種田での防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に虫害に焦点を当てる(アブラムシ類、チョウ目害虫を中心に)。 ・アブラムシ類：葉の裏や生長点付近に付着、生育阻害、ウイルス病の媒介。 ・チョウ目害虫：「モトグロヒラタマルハキバガ」に注意、セリ内部に食入して枯死させる。 <p>4 種セリの採取と催芽処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株元から刈り取って採取。 ・種セリを束ね、ゴザ等で包んで日陰に10～14日間置いて芽出し。処理中は、種セリが乾かないようにかん水、2～3日に1回は天地返し。 <p>5 本田の準備と施肥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石灰窒素を種セリ植え付けの10日前に散布し耕耘。 ・基肥：基肥：a当たり窒素成分量で1.5～2.0kgを目安、追肥：生育に合わせて液肥等を施用。 <p>6 本田への種セリの植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本田に水を入れ、2～5cmの水位で維持。 ・芽出した種セリを適当な長さ(20～30cm程度)に切断、本田にばらまくよう植え付け。 → 節が重ならないよう注意、組むように植え付け。 <p>7 本田での水管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活着後～10月下旬：低水位で管理、最大水位10～15cm程度を目安。 → 止水管理だが、藻の発生予防のため1回/1～2日水栓を開けて循環させる。 ・11月～収穫：保温のため水位を草高の3分の2程度まで上げる。 → 水栓開けて終日流水管理。 <p>*霜が降りる可能性がある場合は、水位を葉先が5cm程度でるまで上げて管理。</p> <p>8 収穫・調製・出荷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫：防水性の胴長を着用、根が切れないよう株元15～20cm下に手を入れて収穫。 ・調製：枯れ葉や病害葉、細根を除去。→ 仕上げ洗い。 ・出荷：出荷先の定めた方法に従い出荷
4	上			
	中			
	下	親株植え付け		
5	上	↓		
	中			
	下		病虫害防除	
6	上	↓		
	中			
	下			
7	上	↓		
	中			
	下			
8	上	↓		
	中			
	下			
9	上	採取 催芽処理	ほ場準備	
	中	↓		
	下		種セリ植え付け	
10	上		水位調節	
	中		病虫害防除	
	下		↓	
11	上			
	中			
	下			
12	上		↓	
	中			収穫
	下			
1	上			
	中		ほ場片付け	



図4 植え付け後の種田の様子



図5 ウイルス感染株



図6 「モトグロヒラタマルハキバガ」の幼虫



図7 調製作業の様子

(14) 小ぎく (8月出荷)



■特徴

- ・ 8月盆, 9月彼岸出荷を中心に作付けされる。輪ギクと比較して, 芽かきの作業がなく省力作目である。
- ・ 収穫期の労働配分を考慮して作付面積や品種を組み合わせる。
- ・ 耐水性は極めて弱く, 排水対策は必須である。

■品種

【8月出荷用】赤色品種：紅天下, しゅうわかな, 精はんな, 秀ありな
 白色品種：はじめ, 水辺, しゅううきぐも, 精かのか, 精しらいと
 黄色品種：このみ, やひこ, はるか, はるな, 精はぎの, 秀みけし

■栽培のポイント

- ・ 地下水位が40cm以下であることが必要で, 排水不良地や転換畑では高うね栽培とする。
- ・ 定植, 病害虫防除, 収穫・調製が主な作業である。8月咲きぎくの開花は, 主に温度環境によって決定される。
- ・ 病害虫防除を徹底する。病害では白さび病, 害虫ではアブラムシ類, ハダニ類, アザミウマ類に留意する。



■経営収支 (8月出荷)

(10a当たり)

- 収穫量 33,000本
- 粗収益 1,900,800円 (本単価; 市場出荷48円【7割】, 直売80円【3割】)
- 年間労働時間 808時間
- 期待される所得 920,254円
- 1時間当たりの所得 1,139円

◎経営収支の内訳 (10a当たり)

項目	金額	備考
粗収益①	1,900,800	収量33,000本, 市場出荷23,100本×単価48円, 直売9,900本×単価80円
経営費	種苗費	27,500 親株
	肥料費	16,639 化成肥料
	農業薬剤費	49,487 殺菌剤, 殺虫剤
	光熱動力費	8,965 軽油, ガソリン
	その他諸資材費	84,699 セルトレイ, 育苗培土ほか
	租税公課及び諸負担	18,782 機械, 施設
	建物及び施設費	32,961 減価償却費, 修繕費
	農機具費	53,711 減価償却費, 修繕費
	労働費	366,072 臨時雇用分
	共済保険料	1,500 親株用パイプハウス
	出荷販売費	288,550 出荷資材, 運賃, 販売手数料ほか
	合計	948,866
所得①-②	920,254	
所得率	48%	

小ぎくの栽培暦（8月出荷）

月	旬	管理作業	栽培の要点																						
1	上	病害虫防除 (親株生育期間中)	1 品種 ・花色や草姿の異なる多くの品種がある。黄色を中心に、白、赤、ピンク系も若干加え、品種の早晩性を考え合わせて作付ける。 2 親株管理と育苗 ・採花後株を9月上旬に地上10cm程度で台刈りし、施肥・土寄せして冬至芽の発生を促す。 ・親株及び冬至芽の伏せ込みは、施設内で行う。伏せ込み床はa当たり堆肥300kg、緩効性の化成肥料を成分量でN、P、K各1.0kg施し、幅120cm、通路60cmとする。 ・親株は株がふれあわない程度、冬至芽は10cm×5cm程度に伏せ込む。 ・施設を開放して低温に十分に遭わせ、12月下旬から保温を開始する。 ・親株、冬至芽とも萌芽したら、採穂の30～40日前に摘心しておき、8～10cm位伸びたら展開葉4枚つけて5～6cmの長さに折り取る。展開葉を3枚残して挿し穂をつくる。 ・発根剤処理し、育苗用土を詰めたセルトレーに挿し、根長2cm位になるまで育苗する。																						
	中																								
	下																								
2	上	親株摘心	3 本畑の準備 ・定植の1か月前に堆肥をa当たり200～300kg投入し、深さ30cm程度深耕する。十分かん水してから耕起し、団粒構造にする。 4 施肥量 施肥例 (成分量kg/a) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">基肥</th> <th colspan="2">追肥</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>1回目 (定植30日後)</th> <th>2回目 (花芽分化時)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>窒素 (N)</td> <td>1.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>リン酸 (P)</td> <td>1.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>加里 (K)</td> <td>1.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>2.5</td> </tr> </tbody> </table>		基肥	追肥		合計	1回目 (定植30日後)	2回目 (花芽分化時)	窒素 (N)	1.5	0.5	0.5	2.5	リン酸 (P)	1.5	0.5	0.5	2.5	加里 (K)	1.5	0.5	0.5	2.5
						基肥	追肥		合計																
				1回目 (定植30日後)	2回目 (花芽分化時)																				
窒素 (N)	1.5	0.5	0.5	2.5																					
リン酸 (P)	1.5	0.5	0.5	2.5																					
加里 (K)	1.5	0.5	0.5	2.5																					
中																									
下																									
3	上	採穂・挿し芽	5 定植 ・転換畑や排水の悪いほ場では高うねとするが、その他は平床とし、うね幅100cm、株間10cmの1条植え、またはうね幅120cm、条間30cm、株間15cmの2条植え (a当たり1,000～1,100本)とする。 ・根がなるべく広がるように植え穴を深く掘り、苗土の面と床面が同一になるように浅植えとする。																						
	中																								
	下																								
4	上	定植	6 定植後の管理 ・定植直後は株元に十分にかん水する。かん水は、定植後、1.5か月、草丈30～40cmまでは特に乾燥に注意する。花芽分化時の水管理は、花芽分化がスムーズに行われるようにやや乾燥気味に行う。ただし、花芽分化後は乾燥させないように管理する。 ・側枝が10cm程度に伸びたら、弱い枝や下位より伸長した枝をかきとり、そろった枝を株当たり3～4本仕立てとする。 ・土寄せは芽の整理後除草を兼ねて行い、草丈30cm程度になったら側枝の出ている高さまで両側から土寄せしてフラワーネットを張る。 ・通常15cm目のフラワーネットを1段張り、生育に応じて引き上げる。 ・小ギクは、株のボリュームがあるので、両サイドにマイカー線を通し、ネットを強固なものにする。 ・下葉が込み合うので、7月上旬頃に葉かきを行って通風を図る。																						
	中																								
	下																								
5	上	土寄せ	7 病害虫防除 ・発生しやすい病害には、白さび病、黒斑病、半身萎ちょう病等があるが、防除の中心は、白さび病である。 ・白さび病の防除は、苗床からの持ち込みをなくすことが大切であり、生育中は窒素過多や多湿等発病を助長するような環境をできるだけ改善する。 ・害虫は、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類等の防除を行う。近年は、ミカンキイロアザミウマの発生が多くなっているので防除に留意する。																						
	中																								
	下																								
6	上	病害虫防除 (生育全期間中)	8 収穫 ・2～3輪開花したら地際から切る。採花は、品質保持のため涼しい朝晩に行う。 ・雨天時の採花は、花や葉が濡れていると、荷傷みの原因になるため、採花後すぐに室内で乾かし、雨露が十分に乾いた状態で出荷調整を行う。																						
	中																								
	下																								
7	上	親株台刈り・施肥 ・土寄せ	8 収穫 ・2～3輪開花したら地際から切る。採花は、品質保持のため涼しい朝晩に行う。 ・雨天時の採花は、花や葉が濡れていると、荷傷みの原因になるため、採花後すぐに室内で乾かし、雨露が十分に乾いた状態で出荷調整を行う。																						
	中																								
	下																								
8	上	収穫・調製・出荷	8 収穫 ・2～3輪開花したら地際から切る。採花は、品質保持のため涼しい朝晩に行う。 ・雨天時の採花は、花や葉が濡れていると、荷傷みの原因になるため、採花後すぐに室内で乾かし、雨露が十分に乾いた状態で出荷調整を行う。																						
	中																								
	下																								
9	上	親株堀上げ・伏せ 込み	8 収穫 ・2～3輪開花したら地際から切る。採花は、品質保持のため涼しい朝晩に行う。 ・雨天時の採花は、花や葉が濡れていると、荷傷みの原因になるため、採花後すぐに室内で乾かし、雨露が十分に乾いた状態で出荷調整を行う。																						
	中																								
	下																								
10	上	親株保温	8 収穫 ・2～3輪開花したら地際から切る。採花は、品質保持のため涼しい朝晩に行う。 ・雨天時の採花は、花や葉が濡れていると、荷傷みの原因になるため、採花後すぐに室内で乾かし、雨露が十分に乾いた状態で出荷調整を行う。																						
	中																								
	下																								
11	上	親株保温	8 収穫 ・2～3輪開花したら地際から切る。採花は、品質保持のため涼しい朝晩に行う。 ・雨天時の採花は、花や葉が濡れていると、荷傷みの原因になるため、採花後すぐに室内で乾かし、雨露が十分に乾いた状態で出荷調整を行う。																						
	中																								
	下																								
12	上	親株保温	8 収穫 ・2～3輪開花したら地際から切る。採花は、品質保持のため涼しい朝晩に行う。 ・雨天時の採花は、花や葉が濡れていると、荷傷みの原因になるため、採花後すぐに室内で乾かし、雨露が十分に乾いた状態で出荷調整を行う。																						
	中																								
	下																								

(15) ブルーベリー

■特徴

- ・排水の良い酸性土壌が好適
- ・複数品種の組み合わせにより、収量が安定し、収穫時期や出荷期間の調整が可能
- ・病害虫は、他樹種と比べて発生が少ないため、農薬はほとんど使用しなくても栽培が可能
- ・労力が集中する収穫・出荷調製作業を適期に行う体制が必須
- ・定植後7～8年で成木となる

■品種

「コビル」, 「ダロウ」, 「バークレイ」, 「ブルークロップ」, 「ブルーレイ」など
 →耐寒性を持つノーザンハイブッシュ系の中から複数品種を混植することで収量が安定する

■栽培のポイント

- ・定植2年目までは、樹形作りを優先するため、花芽はすべて摘除し収穫しない
- ・湿害を避けるため、植栽前に排水対策を実施する
- ・根域の乾燥を防ぐため、杉皮やバークチップ等の有機物マルチ資材で株元をマルチングする
- ・収穫時期が集中しないよう、収穫時期の異なる品種を選択する
- ・ハマキムシやカイガラムシ等の害虫が発生した場合は捕殺する
- ・収穫時期が梅雨と重なることが多く、降雨により果実の劣化や軟化を起こしやすいため、収穫時期の労働力を確保する

■経営収支

【定植7年目（成木時）・10a当たり】

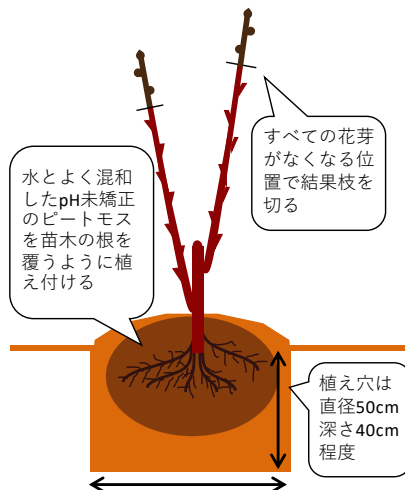
○収穫量 1,000kg ○粗収益 1,500,000円(1kg単価1,500円想定) ○年間労働時間 243時間
 ○期待される所得 1,140,184円 ○所得率 76% ○1時間当たりの所得 4,692円

◎定植7年目までの累計収支の内訳（10a当たり）

年次	支 出			収 入		累計収支
	項 目	金額(円)	備 考	収量(kg)	金額(円)	
1年目	資材費, 肥料費等	706,362		0	0	-706,362
	(内訳) 種苗費	375,000	苗木250本			
	ピートモス	280,000	苗木1本当たり100L			
	肥料費	18,555	化成肥料			
	諸材料費	32,807	剪定鋏等栽培管理資材			
2年目	肥料費, 諸材料費等	58,784		0	0	-765,146
3年目	肥料費, 諸材料費等	113,795	出荷資材経費含む	200	300,000	-578,941
4年目	肥料費, 諸材料費等	168,806	出荷資材経費含む	400	600,000	-30,179
5年目	肥料費, 諸材料費等	234,950	出荷資材経費含む	600	900,000	517,303
6年目	肥料費, 諸材料費等	293,672	出荷資材経費含む	800	1,200,000	1,423,631
7年目	肥料費, 諸材料費等	359,816	出荷資材経費含む	1,000	1,500,000	2,563,815
累計		1,936,185		3,000	4,500,000	

ブルーベリー 栽培暦

月	旬	管理作業	栽培の要点																								
3	上	せん定	<p>1. 作型と品種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培：せん定・収穫・調製以外は比較的手間が掛からない。 ・品種例 「パークレイ」：食味良好，強樹勢，低酸，大粒，ブルーム多い。 「ブルークロップ」：食味良好，多収，総合的に欠点が少ない。 <p>2. せん定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植1～2年目 発芽前までに，すべての花芽がなくなる位置で結果枝を切る。 ・定植3年目以降 発芽前までに，花芽数が全体の半分程度になるよう結果枝単位で切る。 																								
	中																										
	下	発芽期																									
4	上	定植・施肥	<p>3. 定植・栽植密度</p> <p>(1)定植 直径50cm程度，深さ40cm程度の植え穴を掘り，水とよく混和したpH未矯正のピートモス（100L程度/苗木1本）を苗木の根を覆うように植え付け，その後1樹当たり10L程度かん水する。 定植後，株元に樹皮や稲わら等の有機物を10cm程度の厚さになるよう覆うと土壤の乾燥防止や雑草の発生抑制に効果がある。</p> <p>(2)栽植密度例 10a当たり250本 (樹間2m×列間2m)</p>																								
	中																										
	下																										
5	上	開花期	<p>3. 施肥例（成分量g/樹）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施肥成分等</th> <th colspan="4">樹 齢</th> </tr> <tr> <th>1～3年</th> <th>4～6年</th> <th>7～9年</th> <th>10年以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>窒素</td> <td>5</td> <td>15</td> <td>30</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>リン酸</td> <td>5</td> <td>15</td> <td>30</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>カリ</td> <td>5</td> <td>15</td> <td>30</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	施肥成分等	樹 齢				1～3年	4～6年	7～9年	10年以上	窒素	5	15	30	50	リン酸	5	15	30	50	カリ	5	15	30	50
	施肥成分等				樹 齢																						
				1～3年	4～6年	7～9年	10年以上																				
窒素	5	15	30	50																							
リン酸	5	15	30	50																							
カリ	5	15	30	50																							
中																											
下																											
6	上	収穫・調製・出荷	<p>・アンモニア態窒素を含んだ化成肥料を土壤表面に散布する</p> <p>・使用肥料例 セサミブルー（N-P-K：6-5-5）現物 83g/樹/樹齢1～3年</p> <p>4. 収穫・調製</p> <p>(1)時期 収穫適期は，果皮が青色に変化してからおよそ1週間後で，果軸の付け根まで完全に着色した頃。収穫期間は，3～4週間に渡る。</p> <p>(2)方法・留意点 鈴なりになった果実の着色を確認しながら1粒ずつ収穫する。 収穫後，品質は急激に低下するため，日中の高温時の収穫は避ける。 また，収穫前日や当日に降雨があると果実が著しく劣化するため，水滴が乾ききってから収穫するか収穫後に拭き取る。</p>																								
	中																										
	下																										
8	上	※春先まで土壤の乾燥に留意する																									
	中																										
	下																										



3 露地園芸を組み合わせた経営モデル

■作付面積，労働力

経営モデル	耕地面積 (ha)				必要人数		備考
	全体				専従	臨時 (最大)	
	水稲	大豆	露地野菜				
○高収益型							
I ねぎ型	60	35	20	ねぎ 5	8	3	
II キャベツ型	60	35	20	キャベツ 5	5	5	
○土地利用型							
III ばれいしょ型	60	30	20	ばれいしょ 10	5	3	
IV えだまめ型	60	35	20	えだまめ 5	5	6	
○中小規模生産者産地型							
V たまねぎ	-	-	20	たまねぎ 20	3	-	

※繁忙期の臨時雇用の必要人数の目安☒

I ねぎ型：水稲の繁忙期（田植え，収穫時期）を中心に，1～3名程度の臨時雇用が☒約60日間必要。

II キャベツ型：キャベツの収穫時期（11月下旬～12月）を中心に，5名程度の臨時雇用が☒約20日間必要。

III ばれいしょ型：ばれいしょの収穫時期（7月下旬～8月中旬）を中心に3名程度の☒臨時雇用が約25日間必要。

IV えだまめ型：えだまめの播種時期（4月下旬～5月中旬）を中心に，1名程度の☒臨時雇用が約40日間必要。
えだまめの収穫時期（7月下旬～8月中旬）を中心に3～6名程度の☒臨時雇用が約30日間必要

■主要農業機械の装備

経営モデル	水稲，大豆と共用する機械	園芸用機械
○高収益型		
I ねぎ型	トラクター，ロータリー，ブームスプレーヤー，マニュアルプレッダー-ブロードキャスター	溝切り機，移植機，収穫機，根・葉切り機，皮むき機
II キャベツ型	トラクター，ロータリー，ブームスプレーヤー，マニュアルプレッダー-ブロードキャスター	播種機，移植機，畝立て同時施肥機，カルチベーター，収穫機 鉄製コンテナ
○土地利用型		
III ばれいしょ型	トラクター，ロータリー，ブームスプレーヤー，マニュアルプレッダー-ブロードキャスター	ポテトプランター，ポテトハーベスター，ホームチョッパー等 (補助事業を活用した導入を想定)
IV えだまめ型	トラクター，ロータリー，ブームスプレーヤー，マニュアルプレッダー-ブロードキャスター，大豆播種機	えだまめ収穫機，脱莢機，選別機
○中小規模生産者産地型		
V たまねぎ	トラクター，ロータリー，管理機，ブロードキャスター，動力噴霧器	収穫機，ピッカー，乾燥施設等 (JAからのリースを想定)

■モデル経営体の経営指標

経営モデル		I	II	III	IV	V
露地園芸品目		ねぎ型	キャベツ型	ばれいしょ型	えだまめ型	たまねぎ
生産者		法人, 集落営農組織				J A 組合員
販売先		J A	J A	J A, 実需者	J A	J A
経営成果						
労働時間	hr	13,789	5,258	4,016	5,739	12,000
限界利益	円	85,223,050	62,749,300	61,309,400	60,097,550	22,093,400
労働費(短期)	円	571,722	866,278	15,804	1,348,778	0
固定費	円	17,741,650	20,581,200	18,034,100	17,688,600	3,193,400
借地料	円	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	0
野菜交付金あり						
労働報酬(農業報酬)	円	60,909,678	35,301,822	37,259,496	35,060,172	18,900,000
労働力(専従者)1人あたり労働報酬	円	7,613,710	7,060,364	7,451,899	7,012,034	945,000
野菜交付金なし						
労働報酬(農業報酬)	円	58,409,678	32,801,822	32,259,496	32,560,172	12,900,000
労働力(専従者)1人あたり労働報酬	円	7,301,210	6,560,364	6,451,899	6,512,034	645,000

注1) 野菜交付金☒

ねぎ, えだまめ, キャベツ, 加工用ばれいしょは大規模露地園芸助成50,000円/10a
たまねぎは露地園芸助成30,000円/10a(宮城県産地交付金)

注2) 営農モデルV(たまねぎ)の労働報酬は, 各経営体の水稲経営等の所得に加算することを想定している。

注3) 収入

水稲:

品種ひとめぼれ。収量540kg/10a。単価15,034円/60kg(農林水産省「米穀の取引に関する報告」相対取引価格 H29~R3年産平均 税込)。

大豆:

品種はミヤギシロメ。収量250kg/10a。単価8,845円/60kg(税込 (公財)日本特産農産物協会大豆収穫後入札取引における産地・品種別落札数量・平均落札価格H28~R2年産平均 税込)。単価交付金は戦略作物助成35,000円/10a, 畑作物直接支払交付金(数量払)9,930円/60kg。

ネギ:

収量3t/10a 305円/kg(市場単価375円 (H28~R2年仙台市場価格平均 税込), 加工業務用単価200円(税込)とし, 6対4の割合で出荷することを想定)

キャベツ:

収量5t/10a, 単価60円/kg(加工業務用想定価格 税込)

タマネギ:

収量5t/10a 単価65円/kg(加工業務用想定価格 税込)

加工用ばれいしょ:

収量3t/10a, 単価48円/kg(実需者によるR4年産買取予定価格 税別)。バレイショ専用機(プランター1台, ハーベスター1台, 他)補助事業(補助率1/2)を活用して購入。調製作業は収穫機上選別。

エダマメ:

収量425kg, 569円/kg(JA取扱平均価格 H28~R2年度平均 税別)
平均単価は5年分の年間平均価格から最高及び最低価格を除外した3年分の平均とした。

注4) 経営費

水稲, 大豆は「低コスト大規模水田営農の手引き(H29年5月)」参照。他は実態調査による。

(参考1) 国や県などの支援策

野菜栽培を支援するため、国、県・市町村等では様々な支援策を用意していますので参考にしてください。

(1) 補助事業

・国の補助事業

■産地生産基盤パワーアップ事業

農業生産基盤強化プログラム（令和元年12月10日農林水産業・地域の活力創造本部決定）及び令和2年12月8日付けで改訂された「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づき、地域の営農戦略に基づいて実施する産地の高収益化に向けた取組や園芸作物等の生産基盤の強化を図るための取組を総合的に支援します。

詳しくは、地域農業再生協議会または地方振興事務所農業振興部まで、おたずねください。

収益性向上対策・生産基盤強化対策の主な内容			
区分	補助内容	取組主体	補助率
基金事業	農業機械等の導入及びリース導入	農業者、農業者が組織する団体、県市町村、公社、土地改良区、民間事業者等	本体価格1/2以内
	生産資材の導入等		1/2以内
	農業用ハウスの再整備・改修		1/2以内
	農業機械の再整備・改良		1/2以内
	生産装置の継承・強化に向けた取組		定額
	生産技術の継承・普及に向けた取組		定額
整備事業	育苗施設、集出荷貯蔵施設、農産物処理加工施設、生産技術高度化施設等		1/2以内
	農業用ハウスの再整備・改修 生産技術の継承・普及に向けた取組 (生産技術高度化施設)		1/2以内

■水田農業高収益作物導入推進事業

水田を活用し新たに水稻等から園芸作物に作付転換する意向のある産地において、産地の合意形成や初期段階の栽培試験等に支援するほか、園芸作物の本格的な生産に取り組む際の機械・リース導入等を支援します。

詳しくは、市町村または地方振興事務所農業振興部まで、おたずねください。

区分	補助内容	取組主体	補助率
園芸作物導入促進	産地の合意形成や取引先の確保	生産者団体等	定額 (補助金300万円まで)
園芸作物転換強化	栽培技術の確立等	生産者団体等	1/2以内 (補助金機械500万円、施設1000万円まで)
	機械・施設のリース方式による導入等		

■強い農業づくり総合支援交付金（産地基幹施設等支援タイプ）

産地の収益力強化と持続的な発展及び食品流通の合理化にのため、強い農業づくりに必要な産地基幹施設の整備等を支援します。

詳しくは、市町村または地方振興事務所農業振興部まで、おたずねください。

区分	主な補助内容	取組主体	補助率
産地収益力の強化	集出荷貯蔵施設，生産技術高度化施設，種子種苗生産関連施設等の整備	農業者，農業者団体，県市町村，公社等	1/2以内等 (事業費50百万円以上が対象)

■農地利用効率化等支援交付金

人・農地プランに位置付けられた経営体等が、地域が目指すべき将来の集約化に重点を置いた農地利用の姿の実現に向けて、生産の効率化に取り組む等の場合、必要な農業用機械・施設の導入を支援します。

現時点では事業の詳細がわかりませんので、あらためてお知らせします。

事業のイメージ	
助成対象者	人・農地プランに位置づけられた経営体等
助成内容	生産の効率化の取組等に必要な農業用機械・施設
補助率	事業費の3/10以内(融資残補助)等

・ 県，市町村の補助事業

■園芸作物サプライチェーン構築事業

地域農業を牽引する生産者，流通業者，実需者等の業種間連携によるサプライチェーンの最適化に必要な取組を支援します。

詳しくは、地方振興事務所農業振興部または県園芸推進課までおたずねください。

区分	補助内容	取組主体	補助率
推進事業	園芸作物のサプライチェーン構築に向けた研修会開催や試験ほ場設置等に係る経費	生産組織(法人等)，実需者，関係機関をすべて含むグループ	定額 (補助金2.5百万円以内)
整備事業	生産・出荷調整,貯蔵,加工,流通等の各段階でサプライチェーン構築に必要な機械や施設等	上記グループの構成組織	1/2以内 (補助金25百万円以内)

■みやぎの企業的園芸等整備モデル事業

先進的園芸技術の導入や生産から出荷までの拠点づくり，土地利用型大規模園芸のための機械化体系導入，経営の多角化に向けた新商品開発など，企業的経営の取組に必要な施設整備等を支援します。

詳しくは、地方振興事務所農業振興部または県園芸推進課までおたずねください。

区分	補助内容	取組主体	補助率
企業的園芸等施設整備型	先進的園芸技術の導入，生産から出荷までの拠点づくり，地域雇用創出など企業的経営の取組に必要な施設等の導入に要する経費	県内に本店を有する農業法人	1/2以内 (補助金25百万円以内)
付加価値創造支援型	契約栽培による加工・業務用野菜の安定供給，機械化体系導入による大規模露地園芸の効率化，新商品や新サービスによる経営の多角化などの取組に必要な機械等の導入に要する経費		1/2以内 (補助金10百万円以内)

■大規模園芸経営体育成事業

「宮城の将来ビジョン」及び「みやぎ食と農の県民条例基本計画」に掲げる園芸産出額目標の達成に向け、販売額拡大に寄与する施設・機械等の整備に関する事業計画の認定を受けた農業法人等が行う事業の経費について、発展税を活用して支援します。詳しくは、地方振興事務所農業振興部または県園芸推進課までおたずねください。

補助内容	取組主体	補助率
知事の認定を受けた大規模園芸経営体事業実施計画の達成に必要な先進的技術を有する機械・施設等の導入または整備に要する経費	県内の農業法人等で大規模園芸経営体育成事業計画の知事認定を受けた者	1/2以内 (補助金60百万円以内)

■園芸特産重点強化整備事業（市町村振興総合補助金）

「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」が掲げる基本方針及び振興方策に基づき、産地自ら策定した重点振興品目の維持発展を助長し、産地の構造改革を図るために必要な取組を支援します。

詳しくは、地方振興事務所農業振興部または県園芸推進課までおたずねください。

補助内容	取組主体	補助率
生産コスト低減・高付加価値化など、園芸特産物の生産・出荷拡大を図るために必要な施設・機械等の導入に要する経費の助成 生産管理用ハウス、省エネ施設、生産管理省力化機械、出荷調製省力化機械等 産地強化の体制整備及び販売促進に向けた取組に必要な経費（※ハード整備と一体的に行う取組に限る）	農業法人、農業者で組織する農業団体、J A 園芸特産関係部会等	1/3以内 (1事業者当たりの補助金額が50万円以上の事業が対象)

（２）水田活用直接支払交付金

米政策改革の定着と水田フル活用の推進に向け、麦・大豆等を生産する農業者の支援に加え、地域の特色をいかした魅力ある産地づくりや高収益作物の導入・定着等を支援します。

■産地交付金、水田農業高収益化推進助成

水田において野菜等の高収益作物の作付けを行った農業者に対して、国から交付金が支払われます。交付金は各市町村にある地域農業再生協議会毎に対象作物や交付単価が決められています。

詳しくは、お住まいの地域農業再生協議会または宮城県農業再生協議会までおたずねください。

取組例	交付単価	区分
ばれいしょの作付けを1ha以上取り組んだ場合 (高収益作物)	5万円/10a	大規模露地園芸助成
さらに、新たに畑地化し面積を増やした場合 (①と②はセット)	新たな作付面積 に対して3年間 3万円/10a	高収益作物定着 促進支援
① ばれいしょの作付けに対して		
② 水田の畑地化に対して	新たな作付面積 に対して1回限り 17.5万円/10a	高収益作物畑地 化支援

(3) 野菜などの価格安定事業

野菜や果実の市場単価が著しく低下したときに、あらかじめ国や県・市町村、生産者等が事業の種類に応じた負担割合で造成した資金から、生産者へ補給金が交付されます。

本県では、下記の品目が交付対象となり、それぞれの事業における関係農協等から出荷されたものが事業の対象となります。

詳しくは、お住まいの農協におたずねください。

■野菜生産出荷安定資金造成事業（指定野菜）

令和4年3月現在

対象品目	農協名													
	みやぎ 仙南	みやぎ 巨理	名取 岩沼	仙台	新みやぎ					古川	加美 よつば	みやぎ 登米	いしの まき	
					あさ ひな	みど りの	栗っ こ	いわで やま	南 三陸					
夏秋きゅうり	○						○			○			○	
冬春きゅうり		○	○							○			○	○
秋冬はくさい											○			
ほうれんそう					○	○			○					
夏秋トマト			○											○
秋冬ねぎ											○			○
夏秋なす						○			○					
春キャベツ									○				○	
夏秋キャベツ									○				○	

■特定野菜等供給産地育成資金造成事業（特定野菜）

令和4年3月現在

対象品目	農協名													
	みやぎ 仙南	みやぎ 巨理	名取 岩沼	仙台	新みやぎ					古川	加美 よつば	みやぎ 登米	いしの まき	
					あさ ひな	みど りの	栗っ こ	いわで やま	南 三陸					
しゅんぎく		○												
ほうれんそう				○										

■青果物価格安定資金造成事業（一般野菜）

令和4年3月現在

対象品目	農協名												
	みやぎ 仙南	みやぎ 亘理	名取 岩沼	仙台	新みやぎ					古川	加美 よつば	みやぎ 登米	いし のまき
					あさ ひな	みど りの	栗っ こ	いわで やま	南 三陸				
きゅうり			○	○	○	○				○			○
トマト			○		○	○	○		○	○			
ねぎ		○	○		○	○	○			○	○	○	
キャベツ							○					○	
ほうれんそう			○				○				○	○	
曲がりねぎ			○										
こねぎ						○							
そらまめ		○	○			○	○			○		○	○
たまねぎ			○		○	○						○	
えだまめ			○							○			
ミニトマト			○			○	○					○	
いちご						○				○			
生しいたけ						○	○						
豊水	○												
新高	○												
幸水	○												
はくさい			○	○									
レタス			○	○									○
みずな						○							
しゅんぎく		○				○				○	○		
こまつな			○			○				○	○		
チンゲンサイ			○										
だいこん				○			○						
にら		○								○		○	
つるむらさき	○					○							
つぼみな							○						
ブロッコリー			○			○				○			
なす			○				○			○		○	
スイートコーン			○										○
かぼちゃ			○				○					○	
ピーマン		○				○	○						
にんにく													
ゆきな		○	○	○						○			○
ズッキーニ			○				○						
せり			○										
えのきたけ											○		
なめこ						○	○						

(参考2) 鳥獸被害防止対策

(1) 主要鳥獣の生態と行動 (イノシシ)



平成20年度までは県南までが主な生息地であったが、分布域は次第に拡大し、現在では県内全域に生息する。

本来警戒心が強く、臆病なため、人前には姿を現さない動物だが、比較的人里近くに生息しており、人の生活圏とイノシシの生息適地は重なっている。そのため、落葉広葉樹林や茂み、耕作放棄地や竹林など餌が豊富にあり身を隠せる場所はイノシシにとって格好の生息環境となっている。

1.食性

- ・雑食性で、人間が食べるものはすべて食べる。
- ・主に、イモやタケノコ等を好む植物食だが、ミミズ、昆虫の幼虫、ネズミなどの小動物も食べる。

2.行動

- ・夜行性と思われがちだが、本来は昼に行動する。警戒心が強く、臆病なため、人の影響が少なくなる夜間に活発に行動する。
- ・記憶力がよく、学習能力も高いため、侵入防止柵の穴の場所を覚えていたり、侵入に成功した仲間の行動を真似して侵入したりする。
- ・成獣は1 m以上の跳躍力を持つが、野生動物にとって怪我は命に関わることであるため、天敵に追われているような危機的状況でなければ飛ぶことはほとんどなく、侵入防止柵を飛び越えるよりも下を潜って侵入しようとする傾向がある。
- ・鋭い嗅覚を持つが、エサを探すときは視覚も使う。
- ・鼻は、土を掘ったり障害物を動かすときにも使い、50~60kgの重さを持ち上げる力がある。
- ・鼻先は敏感で、電気刺激などには弱い。
- ・体毛は太く剛毛。通電しないので、鼻先以外が電気柵に触れても平気。

3.被害防止のためのポイント

①侵入防止柵を設置する

イノシシは縄張り意識が弱いため、一度イノシシに侵入された農地は、他のイノシシも次々と侵入する。

ワイヤーメッシュ柵や電気柵など、侵入防止柵を設置することが最も効果的。電気柵の場合は、20cm、40cmの高さの2段張りにする。

②草刈りを行い隠れ場所をなくす

イノシシは警戒心が強いため、エサの近くまで茂みなど身を隠せる場所を歩いて近づく。草刈りで侵入防止柵の周囲の見通しを良くし、イノシシが身を隠しながら近づけない環境を作ることによって、侵入防止柵の設置効果を上げることができる。

③作物残渣を放置しない

作物残渣を柵の外に捨ててしまうとイノシシを呼び集めてしまう。集落内にエサとなるものを放置せず、イノシシが集まらない環境作りに努める。

(1) 主要鳥獣の生態と行動（ニホンジカ）



県内のニホンジカは、牡鹿半島の個体群が北上し、岩手県五葉山の個体群が南下することで分布が拡大しており、生息密度も増加傾向である。

餌となる植物が多い場所を好むため、林内以外に、林縁、伐採跡地、造林地なども餌場としている。

1. 食性

- ・ 草食性で、植物は一部の有毒な植物（アセビなど）を除き、何でも食べる。
- ・ シカのエサが乏しくなる冬期には、農地、林道や農道の法面、果樹園などに芽吹く草を好んで食べる。

2. 行動

- ・ 本来は一定の地域に定着して生活する。
- ・ 雌は母系的な群れで子供を従えて行動し、雄は単独か雄だけの群れで行動する。
- ・ 警戒心が強く、夜間に出没することが多いが、人慣れすると昼間でも出没し、人を見ても危険がないと判断すると逃げ出さない。危険を感じると警戒音を出し、仲間に知らせる。
- ・ 牛と同じ反芻動物であり、2～3時間採食、2～4時間反芻をするリズムを繰り返す。
- ・ 助走せずに1.5m以上の障害物を飛び越える跳躍力を持つが、侵入防止柵など障害物は上を飛び越えるよりも下を潜り抜けることが多い。
- ・ 踵が丈夫ではないため、グレーチングなどの踵を傷つけるものを嫌う。

3. 被害防止のためのポイント

① 侵入防止柵を設置する

ワイヤーメッシュ柵や電気柵など、侵入防止柵を設置することが最も効果的。ワイヤーメッシュ柵の場合は、ニホンジカの首が入らないよう網の目が10cm以下の柵を選ぶ。電気柵の場合は、20cm, 40cm, 70cm, 110cm, 150cmの高さに5段張りにし、下を潜ろうとしたときに体毛のない鼻先が電線に触れるよう設置する。

② 柵のメンテナンスを定期的に行う

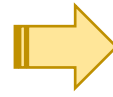
柵に穴が空いていたり、柵の地際に隙間があると、穴や隙間の場所を覚えて執拗に侵入しようとする。

補修はしっかり行い、侵入されない管理が必要。

(2) 自分でできる対策のポイント

鳥獣被害対策の基本的な考え方

- 1) 鳥獣を寄せ付けない環境整備
- 2) 侵入防止対策
- 3) 捕獲活動（個体群管理）



自分でできる
鳥獣被害対策

1) 鳥獣を寄せ付けない環境整備

①緩衝帯を設置する

緩衝帯とは、山林に生息する鳥獣が、農耕地や人の生活エリアへ接近するのを防ぐために、野生鳥獣が隠れながら接近できるような茂みを帯状に刈り払った見通しの良い区域のこと。緩衝帯を設置すると、警戒心の強い野生鳥獣は簡単に農地に近づけなくなり、人と鳥獣のすみ分けを進められる。

②エサ場をなくす

農作物の収穫残渣や生ゴミ、放任果樹等がある地域は野生鳥獣にとって格好のエサ場。エサ場をなくし、野生鳥獣の住処とならない地域づくりをすることが重要。

2) 侵入防止対策（ワイヤーメッシュ柵）

- ①目合いは正方形にする。イノシシ・シカ用は目合い10cm，中型獣類には目合い7.5cm以下のものが有効。なお，長方形のものはくぐられたり，壊されたりする可能性がある。
- ②柵には表裏がある。縦棒が手前にくる面が表で，こちらを外側に向ける。
- ③十分な高さを確保。イノシシ用は80cm以上，シカ用は150cm以上。
- ④支柱にくくりつけたり，地際を補強し，倒されたり持ち上げられったりしないよう補強する。
- ⑤柵の上部を外側に折り返す。上部を30cm程度折り曲げると，乗り越えられなくなる。



図1. イノシシのワイヤーメッシュ柵設置イメージ

2) 侵入防止対策（電気柵）

- ①体毛が生えていない鼻の高さに電線を張る。イノシシは20,40cmの2段、クマは20,40,60cmの3段、シカは20,40,70,110,150cmの5段、ハクビシン等は5,15,25,35cmの4段。なお、対象鳥獣が2種類以上の場合、電線を張る高さを組み合わせるなどして工夫する。

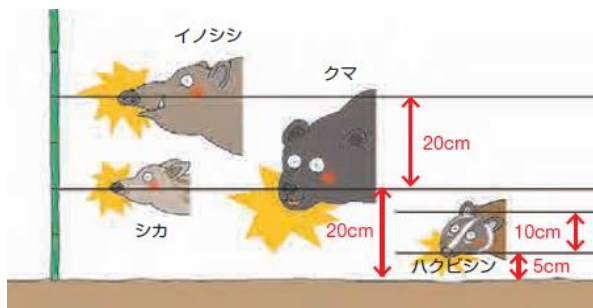


図1. 獣種別電気柵の高さ

- ②支柱はアスファルト近くや乾いた土の上に立っていない。電気柵は、電気が野生鳥獣の身体を通り、地面に抜けることで効果が出る。そのため、野生鳥獣の鼻先が電線に触れる時に、電気が通りやすい地面に脚がくるように位置を調節する。また、アースは地中深くに差し込む。

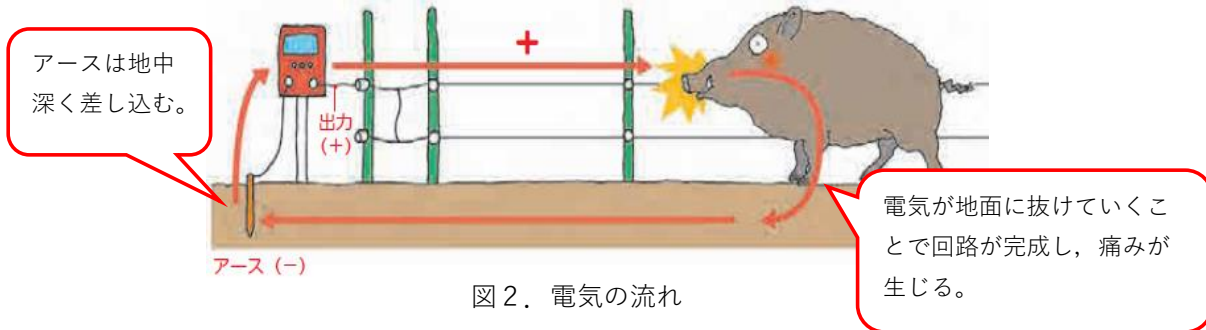


図2. 電気の流れ

- ③ガイシは柵の外側につける。

- ④凹凸部や傾斜地では支柱を多く使って、隙間があかないよう設置する。

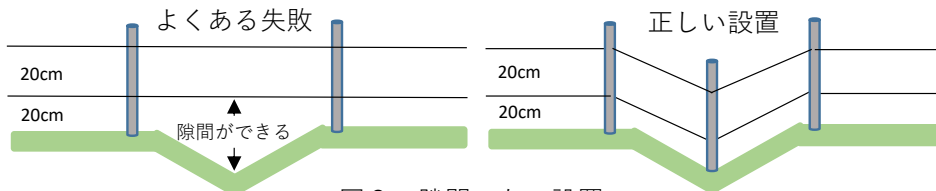


図3. 隙間のない設置

- ⑤イノシシは、走る勢いや飛び越える勢いで柵を抜けることもあるため、設置場所には注意。

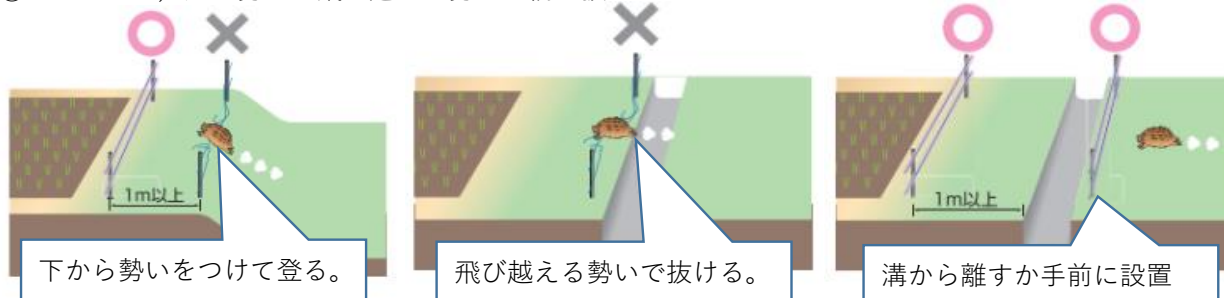


図4. 正しい設置場所

(3) 鳥獣被害防止総合対策交付金

市町村が作成する「被害防止計画」に基づき、農林水産業等に被害を及ぼす鳥獣の①捕獲、②被害防除、③生息環境管理等の取組を総合的に支援する。

①捕獲（個体群管理）

野生鳥獣による被害を防止するためには、環境整備や侵入防止対策と併せて、加害個体の捕獲を進めることが重要。捕獲に必要な機材や活動の経費を支援する。

捕獲機材の導入経費を支援

(1)支援内容

わな等捕獲機材の導入経費

(2)補助率

1 / 2 以内

（実施隊が行う場合は、捕獲有資格者人数に応じた限度額以内で定額支援）

※上限単価は以下のとおり

【上限単価】

箱わな（大型）	1 1 9 千円/基
（中型）	8 8 千円/基
（小型）	1 9 千円/基
くくりわな	1 6 千円/基
囲いわな	3 1 千円/㎡



箱わな



くくりわな

捕獲活動経費を支援

(1)支援内容

有害捕獲に係る捕獲活動経費

(2)補助率

定額

※上限単価は右に記載

【上限単価】

イノシシ・シカ （成獣）	ジビエ利用	9 千円/頭
	焼却処理	8 千円/頭
	埋設等	7 千円/頭
クマ・サル等（成獣）		8 千円/頭
その他獣類（幼獣含む）		1 千円/頭
鳥類		200円/羽

②被害防除

対象とする獣種に応じた侵入防止柵や設置方法を選択し、侵入口がないよう施工することが重要。侵入防止柵の設置を支援する。

(1)支援内容

侵入防止柵の整備は「新規整備」と「再編整備」が可能。また、施工には「直営施工」と「請負施工」があるが、施工方法により補助率が異なる。補助率は以下のとおり。

(2)要件

侵入防止柵整備の受益戸数が3戸以上

(3)補助率

- ・直営施工（資材費のみ対象） 定額
- ・請負施工 事業総額の1/2以内等

新規整備の上限単価				再編整備の上限単価			
獣種	柵の種類	上限単価（円/m）		獣種	柵の種類	上限単価（円/m）	
		直営施工	請負施工			直営施工	請負施工
獣種共通	電気柵（1段あたり）	148	391	獣種共通	電気柵（1段あたり）	25	225
	ネット柵	1,090	2,600		ネット柵	192	1,612
イノシシ	金網柵	1,970	5,380	イノシシ	金網柵	296	2,726
	ワイヤーメッシュ柵（パネル状）	1,290	3,000		ワイヤーメッシュ柵（パネル状）	192	1,612
シカ	金網柵（ロール状）	2,790	7,620	シカ	金網柵（ロール状）	430	3,710
	ワイヤーメッシュ柵（パネル状）	1,950	4,530		ワイヤーメッシュ柵（パネル状）	286	2,426

③生息環境管理

野生鳥獣による被害の防除には、鳥獣を寄せ付けない環境づくりが重要。そのような環境づくりに係る活動を支援する。

(1)支援内容

緩衝帯の設置、放任果樹の除去、雑木林の刈払いに係る経費

(2)補助率 1/2以内

※活動を鳥獣被害対策実施隊が行う場合、実施隊の捕獲有資格者人数に応じた限度額までの定額補助あり。限度額は右に記載。

有資格者人数	限度額
0人	→ 50万円
1～4人	→ 100万円
5～19人	→ 200万円
20人以上	→ 300万円

ここまでの内容は、鳥獣被害防止総合対策交付金の支援内容の一部です。

他にも様々な支援内容がありますので、鳥獣被害にお困りの方は、お住まいの市町村役場までご相談ください。



ほ場整備地区における高収益作物の栽培法 Ver2

令和4年3月発行
宮城県農業・園芸総合研究所
住所 名取市高館川上字東金剛寺1番地

問い合わせ先
宮城県農業・園芸総合研究所 野菜部 露地野菜チーム
電話番号 022-383-8124

関係事業名 農地耕作条件改善事業
担当 宮城県農政部農山漁村なりわい課